

令和3年～有識者による検討『アジア太平洋数理・融合研究戦略検討会』

資料4-1
科学技術・学術審議会
基礎研究振興部会(第6回)
令和3年8月2日

「アジア太平洋数理・融合研究戦略検討会」報告書(「提言」抜粋)

令和3年7月16日
研究振興局

第4章 推進方策(提言)

第3章で抽出した課題を踏まえ、今後、我が国が取るべき方策として以下の取組を提案する。

【提案】:アジア太平洋地域における数理・融合研究に関する国際頭脳循環ハブ機能の構築
・AIが一層進展し、コロナ禍の克服に向けた、DXの推進が求められるこのウィズコロナ・ポストコロナ時代に対応し、第6期科学技術・イノベーション基本計画及びAI戦略等において強化が謳われている数理科学分野について、我が国の研究力の維持・向上を図るとともに、数理科学を活用したイノベーションやアジア太平洋地域の共通課題の解決に貢献するための国際頭脳循環の場(「出会いと議論の場」)と仕組みを構築する。

・具体的には、歴史的に主導的立場にあった我が国の数理科学力を活かし、欧米と並ぶ数理科学分野の第三極を形成すべく、アジア太平洋地域を中心とした高度な数理系人材・研究組織をつなぐ①国際頭脳循環のハブ及び②数理科学と諸科学・社会との協働のプラットフォームとしての機能を果たす数理・融合研究に関する国際的な場(フォーラム)を設立する。

・フォーラムに集う国際的に著名な研究者や異分野の研究者との交流、産業界等との社会的ニーズを踏まえた協働により、

①数理科学研究の強化や新たな数理・融合領域研究領域の開拓・創出

②我が国の数理人材の視野・関心・経験値の拡大による「俯瞰的数理人材」の育成、国際的なコミュニケーション能力及びネットワーク形成能力の醸成に貢献する。

・当該フォーラムを活用し、数理科学における研究形式として国際的な潮流である滞在型研究及びPBL型研究(国際的産学連携)を海外研究者とともに実施することにより、我が国及び同地域共通の社会的課題やSDGs課題の解決、研究力の向上・人材育成、産業界等の抱える問題の解決等に寄与する。

・フォーラム機能の一つとして、アジア太平洋地域の数理関連動向の情報収集・調査や独自の雑誌等の発刊による情報発信や広報、このような活動に貢献する同地域の若手研究者の顕彰等も行う。

(参考:第3章で抽出した課題)

(1)研究力の強化、(2)イノベーション・産学連携、(3)人材育成、(4)国際的存在感、(5)理解増進

委員名簿

伊藤 亜聖	東京大学社会科学研究所 准教授
稲葉 寿	東京大学大学院数理科学研究科 教授
江村 克己	(一社)日本経済団体連合会 イノベーション委員会企画部会部会長
◎岡本 久	学習院大学数学科 教授 (一社)日本応用数理学会 会長)
グレーヴァ 香子	慶應義塾大学経済学部 教授
國府 寛司	京都大学理学研究科長
小谷 元子	東北大学 理事・副学長
○樺 広計	情報・システム研究機構 統計数理研究所 所長
中村 天江	リクルートワークス研究所 主任研究員
長谷山 美紀	北海道大学 副学長
森 聡	法政大学法学部 教授

◎:主査 ○:主査代理

※五十音順

検討会開催実績

令和3年1月29日(金)	第1回検討会
令和3年3月22日(月)	第2回検討会
令和3年4月22日(木)	第3回検討会
令和3年5月17日(月)	第4回検討会
令和3年6月10日(木)	第5回検討会
令和3年7月16日(金)	「検討会報告書」取りまとめ